

発行：小諸市地域ケア推進会議事務局（小諸市高齢福祉課・小諸市社会福祉協議会）

## 令和7年度 第4回地域ケア推進会議を開催！

令和8年2月24日に第4回地域ケア推進会議を開催しました。

今回は、①「有償生活支援サービスの仕組みづくりについて」と②「認知症初期集中支援チーム報告とグループワーク」の2項目で開催しました。詳細は下記と裏面をご覧ください。

また今回は、本年度最後の地域ケア推進会議でした。委員の皆様、1年間ありがとうございました。



### ① 有償生活支援サービスの仕組みづくりについて 生活支援体制整備事業

専門業者の手を借りずに「ちょっとした困りごと」を解決する“仕組み”をつくるために、小諸市版 有償生活支援サービスを試行（試行①）してきました。試行①のなかで出た課題に対応し、試行②を行っていきます。



#### 試行①で出た課題と対応

- ・“ちょっとした”を超える困りごとの依頼があった
- ・実施場所に対して協力者が遠く、コストがかかる
- ・類縁の事業者があり、利用者の戸惑いを招く



受諾可能な「困りごと」をリスト化し、明確に案内する  
協力者の募集は、直接依頼と並行して幅広く周知し募る  
各事業者と意見交換を行い、すみ分けと連携を検討する

#### 困りごととして

#### 「ごみ出し」の課題が・・・

- ★ごみを集積所に持っていけない
  - ★既存のごみ出し支援の料金を支払えない
- 等々の課題が出てきました



「ちょっとした困りごと」と捉え、有償生活支援サービスのリストに入れて対応していきます。

#### 「区への働きかけ」

#### 「地域住民の実施者集め」

#### 「仕組みの整理」

などの準備を進めます

#### 試行②実施の枠組み

#### 【「ちょっとした困りごと」の明確化】

1回30分程度の実施とし、試行②では「清掃」「ごみ出し」「荷物の運搬」「灯油入れ」の4項目と明示。“ちょっとした”を超える困りごとの依頼は他事業者等と連携する。

#### 【対象者】

試行区の独り暮らし高齢者と地域包括支援センター等の個別支援が必要な方を対象とする。「ごみ出し」に関しては区を問わず対応する。

#### 【報酬】

1回30分程度500円（交通費含む・実費別）を依頼者が実施者に支払う。

#### 【保険について】

福祉サービス総合補償へ加入する。



## ② 認知症初期集中支援チーム報告とグループワーク

小諸市の認知症に関する現状と取り組みについて、高齢福祉課の認知症初期集中支援チームから報告がありました。令和7年4月の小諸市の高齢化率は33.38%、うち介護保険制度利用者は14.4%。うち認知症症状のある方は64.9%。介護保険新規申請の原因のトップは、認知症が継続しています。2024年、国は「共生社会を実現するための認知症基本法」に基づき、「認知症施策推進基本計画」を閣議決定し、認知症対策強化を図るとしています。

### ～自分事として考える時代へ～

認知症になっても  
認知症とともに自分らしく生きることが出来る時代に。  
考え方をシフトチェンジしていくことが大切！



#### 新しい認知症観

私たち一人ひとりが認知症について  
正しく理解し、偏見をもたず接することが大切です。



もろもろマップ



希望を持って生きる  
認知症になっても、  
希望を持ち、  
人生を楽しむ  
ことができる



自分らしく生きる  
自分のペースで、  
好きなことをして  
生活できる



地域とのつながり  
地域の人たちと  
関わり、  
支え合いながら  
暮らす



尊厳を大切にする  
認知症の人も、  
一人ひとりが  
尊重される  
べき存在である

小諸市の取り組みとして、啓発活動、地域づくりと見守り、個別支援を行っています。

支援するうえでこんな課題が・・・

認知症疑いから介護保険サービスを開始するまでの過程で  
適切な支援が受けられない空白の期間が生じる。

認知症疑い → 診断 → サービスの利用

空白期間Ⅰ

診断されたら怖い まだ生活できている  
家族にも相談できていない・・・

空白期間Ⅱ

まだ、様子を見よう 薬を中断しちゃった  
誰にも知られたくない

もう少し早く相談やサービスにつながっていれば、  
認知症の進行を緩やかにしたり、家族の負担を軽減できたのでは？



認知症サポーターキャラバン

小諸市  
高齢者見守り事業所

私たちは、高齢者がお困りの時に  
お手伝いします！

どんな  
関わりができる？

空白時間を  
少なくするには？

#### グループワークを実施

認知症の人が適切なタイミングで支援につながり、家族も負担が軽減され、認知症の人が自分らしく生活  
できるためにどんな手立てがあるのか、周囲ができることは何かそれぞれの立場から話し合いました。

それぞれの立場から、様々な意見がありました。認知症になっても“地域で自分らしく生きられる時代”  
という新しい認知症観の周知・啓発をすすめ、民生委員さんとの地域交流から包括や医療機関等へつながる。  
また、かかりつけ医や薬局でのスクリーニングの活用など、認知症になる前から広く関わりを持つことが、  
適切な支援へとつながる等の話がありました。